

施策の成果指標・目標値の達成状況総括表

評価基準 ◎ 100%以上 ○80%以上100%未満 △50%以上80%未満 □20%以上50%未満 ×20%未満 −評価外

基本目標	基本政策	項目	現状 (令和2年度)	目標値 (令和7年度)	達成状況	達成率(%)	評価	補足説明
楽しいね	1-1	児童生徒の学力向上	小・国算平均並み 中・算英平均低い	全国平均以上	小・国算平均より低い 中・国数平均より低い	小学70% 中学75%	△	小中ともに算数数学の課題が大きい
		勉強が好きな児童生徒の割合	—	小80%以上 中70%以上	小・77.4% 中・79.0%	小学96% 中学112.8%	○	児童生徒の主体的な学びの成果が見られる
		照明のLED化と校舎エレベーターの設置	1校	3校	LED化：最上 エレベーター：大堀小	33.0%	□	LED化：向町小は7年度に実施予定
		GIGAスクールサポーター設置	3校	3校	配置している	100.0%	◎	今後も継続
		地元産食材を使用した給食提供回数	70回/年	80回/年	119回/年	148.8%	◎	産直や農協等より、最上町産の食材を購入し給食に提供
	1-2	子育てに不安を感じている人の割合	50%	20%	「子育てが楽しくない」「辛い」とする割合が7%と減少しており、目標は達成している	70.0%	△	子育てが「楽しい」だけではないが、子育てに向き合う気持ちに変化が見られ、不安を相談する相手の存在も確認できている
		待機児童の人数	0人	0人	0人	100%	◎	保育が必要な子どもは全員受け入れている
		子育て環境に満足している人の割合	23.9%	30%	19.30%	64.0%	□	近隣の市町村に出かける機会も増え、町の支援等を比較し、要望が増えてきているのではないかな
		室内外の遊び場整備	—	1施設	0施設	方針変更	—	施設を1か所にまとめるのではなく、移動型の遊び場整備にシフトチェンジを予定している
		妊娠出産について満足している人の割合	100%	100%	100%	100.0%	◎	
		この町で子育てしたいと思う親の割合	96.2%	98.5%	100%	101.5%	◎	「そう思う」「どちらかといえばそう思う」の回答した割合
	1-3	生涯学習フォーラムの開催	0回/年	1回/年	0回/年	0%	×	
		地区公民館での学級講座	8回/年	10回/年	19回/年	190.0%	◎	向町(いきいき大学)4回 富沢(ひまわり大楽)7回 大堀(八森大学)8回
		集落公民館での出前講座	0回/年	1回/年	0回/年	0%	×	
		封人の家観覧者数	2,136人/年	6,000人/年	2,990人/年	49.8%	□	外国人観光客数はコロナ禍の緩和と共に増え始めている。
		収蔵文化財の総整理個数	792個	1,000個	1,040個	104.0%	◎	
		最上の宝登録数	—	10件	7件	70.0%	△	
		総合芸術文化祭の入込数	400人	800人	772人	96.5%	○	
		ふるさと塾賛同団体登録数	7団体	10団体	6団体	60.0%	△	活動困難により事実上解散した団体あり
		おくの細道俳句大会投句数	719句	800句	1,327句	165.8%	◎	
		総合型スポーツクラブ事業への参加者数	300人	400人	331人	83.0%	○	水泳教室 124人 サッカー教室 126人 スポーツ教室 56人 トレーニング 20人

評価基準 ◎ 100%以上 ○80%以上100%未満 △50%以上80%未満 □20%以上50%未満 ×20%未満 – 評価外

基本目標	基本政策	項目	現状 (令和2年度)	目標値 (令和7年度)	達成状況	達成率	評価	補足説明
幸せだね	2-1	特定健診受診率	53.1%	65%	49.70%	76.5%	△	R6は検診会場の変更に伴う影響が大きい。
		地域で健康体力づくりに取り組む団体数	24団体	29団体	24団体	82.7%	○	この5年間はコロナ禍があり活動停止した団体も多くあった。
		町内運動サークル等の情報提供	—	2回/年	1回/年	50.0%	△	社会福祉協議会で月1回健康クラブでの教室の案内チラシを回覧
	2-2	病院経営の改善（一般財源充当の割合）	51.7%	49.7%	62.50%	0.0%	×	入院及び外来収益、公衆衛生活動収益の減により、経営資金を一般会計から補てん
		医療スタッフの確保	1人	8人	11人	137.5%	◎	・常勤医師2人 ・看護師6人 ・理学療法士1人 ・作業療法士1人 ・管理栄養士1人
		認知症サポーター養成講座の開催回数	4回/年	5回/年	7回/年	140.0%	◎	
		地域ケア会議	3回/年	3回/年	3回/年	100.0%	◎	
	2-3	避難行動要支援者登録者数	174人	200人	208人	104.0%	◎	
		高齢者世帯間口除雪戸数	35戸	50戸	47戸	94.0%	○	
		有償ボランティア活動団体数	—	3団体	2団体	66.6%	△	

評価基準 ◎ 100%以上 ○80%以上100%未満 △50%以上80%未満 □20%以上50%未満 ×20%未満 – 評価外

基本目標	基本政策	項目	現状 (令和2年度)	目標値 (令和7年度)	達成状況	達成率	評価	補足説明
安心だね	3-1	自主防災組織率	91%	100%	93.90%	93.9%	○	残り4地区
		防災士資格取得者数	19人	29人	25人	86.2%	○	
		死亡事故件数	1件	0件	0件	100.0%	◎	令和5年6月2日から死亡事故0件
	3-2	克雪化住宅支援件数	46件	71件	79件	111.0%	◎	3-3-1 住宅環境の整備と同じ事業内で実施
	3-3	新增改築支援件数	492件	602件	265件	125.0%	◎	3-2-1 克雪化住宅支援と同じ事業内で実施
		公営住宅長寿命化棟数	10棟	20棟	18棟	90.0%	○	
		高齢者向け住まいの検討会議	—	1回	1回	100.0%	◎	
		上下水道施設の改修件数	—	12件	12件	100.0%	◎	
		水道未普及地域対策件数	—	15件	7件	46.7%	□	
		合併浄化槽設置基数	718基	868基	805基	92.7%	○	
		舗装改修路線数	8路線	15路線	16路線	106.0%	◎	
		橋梁の長寿命化	6橋	9橋	13橋	144.0%	◎	
		予約制乗合バス利用者数	2,821人/年	12,000人/年	7,993人/年	67.0%	△	全町の範囲で本格導入を行った 令和4年度から年度約8,000人の利用実績
		個別施設計画の管理面積（延べ床面積）	90,153㎡	78,874㎡	86,209㎡	35.0%	□	令和6年度までに除却・譲渡を行った実績値

評価基準 ◎ 100%以上 ○80%以上100%未満 △50%以上80%未満 □20%以上50%未満 ×20%未満 - 評価外

基本目標	基本政策	項目	現状 (令和2年度)	目標値 (令和7年度)	達成状況	達成率	評価	補足説明
豊かだ	4-1	農業生産額	48.8億円	55億円	58億円	105.45%	◎	
		猟銃免許取得者	40人	45人	27人	60.00%	△	
		ほ場整備取組み地区数	2地区	4地区	3地区	75.0%	△	
		中山間地域等支払交付金事業取組み地区数	7地区	18地区	17地区	94.44%	○	
		認定農業者数	171人	181人	138人	76.24%	△	
		新規就農者数	20人	25人	25人	100.0%	◎	
		組織経営体数	11経営体	13経営体	13経営体	100.0%	◎	
		エコファーマー数	107人	150人	0人	廃止	—	認証制度が廃止
		農業使用済みプラスチック回収	2回/年	2回/年	2回/年	100.0%	◎	
	4-2	町内産直施設における販売額	62,000千円	79,100千円	58,619千円	74.1%	○	令和5年11月道の駅開設 令和6年6月1店舗移転
		規模拡大や新規進出企業数	461社	466社	390社	83.7%	○	2022年度 最上町主要統計
		新規ビジネス開拓数	—	15件	11件	73.3%	△	農観商工ビジネスチャンス支援事業
		創業相談件数	—	15回	5回	33.3%	□	商工会実績
		雇用創出支援人数	11人	50人	58人	116.0%	◎	雇用奨励金実績
		人材育成セミナー	—	10回	12回	120.0%	◎	企業訪問ツアー、最上地域合同セミナー等

4-3	前森高原入込客数	50,440人/年	80,000人/年	60,125人/年	75.2%	△	酷暑、キャンプブームに陰り
	赤倉温泉スキー場入込客数	27,025人/年	30,000人/年	23,244人/年	77.5%	△	コロナ禍から回復基調
	赤倉温泉ゆけむり館入込客数	49,730人/年	60,000人/年	59,619人/年	99.4%	○	顧客が安定化。新規企画やリノベーションを要す。
	道の駅もがみ(仮称)入込客数	299,000人/年 ※川の駅実績	366,000人/年	179,209人/年	49.0%	□	コロナ禍から回復基調も豪雨災害の影響あり
	産直施設の売上額	41,775千円	50,400千円	50,495千円	100.0%	◎	令和6年1月～12月
	魅力的商品の開発	—	3品	6品	200.0%	△	芋煮、アスパラコロッケ・MOGAMIエール・赤倉さいだー・赤倉物語・柿干し
	商店街を中心としたイベント開催数	6回/年	10回/年	10回/年	100.0%	◎	もがみ桜まつり、盆の市、大産業まつり等
	キャッシュレス決済導入事業者数	34店舗	50店舗	28店舗	56.0%	△	事業所の閉鎖による
	新たな旅行商品の開発	—	5件	0件	0%	×	コロナ禍による
	教育旅行受入れ人数	—	500人/年	7人/年	1.4%	×	R5までコロナ禍によりプラン構築無し R6バイオマス活用学習の受入
	観光客入込数	503,051人/年	1,000,000人/年	853,773人/年	85.4%	○	ゆけむり館、道の駅効果
	友好会員数	5,387人	5,900人	5,412人	91.7%	○	ネットでの受け入れによる増加
	最上小国川釣り客数	2,187人/年	3,400人/年	1,203人/年	35.4%	□	釣マニアが減少傾向
	イベント参加人数	50人	800人	400人	50.0%	△	コロナ禍に開催ができなかったイベントがあったため

評価基準 ◎ 100%以上 ○80%以上100%未満 △50%以上80%未満 □20%以上50%未満 ×20%未満 – 評価外

基本目標	基本政策	項目	現状 (令和2年度)	目標値 (令和7年度)	達成状況	達成率	評価	補足説明
美しいね	5-1	一般廃棄物排出量	2,181 t /年	1,975 t /年	1,899t/年	136.9%	◎	
		資源化の割合	8.0%	8.3%	7.50%	90.0%	○	
		不法投棄物発生量	510kg/年	460kg/年	420kg/年	180.0%	◎	
		河川等の環境基準を超える箇所	1箇所	0箇所	0箇所	100.0%	◎	
	5-2	里山林整備事業	56.6ha	81.6ha	58.09ha	71.2%	△	
		美しい森林づくり基盤整備事業	88.07ha	163.07ha	162.41ha	99.6%	○	
		森林環境学習機会の提供	3回/年	3回/年	3回/年	100.0%	◎	
		年間消費量に対する再生エネルギーの導入率	28.2%	31.0%	29.10%	93.8%	○	環境省発表の年間消費量に対する町内再生可能エネルギー量の伸び
		町の事業における温室効果ガスの削減率	6.6%	22.0%	15%	68.1%	△	ゼロカーボンエネルギーや省エネ機器、環境価値のある電気契約への切替へ
		新規バイオマス・再生可能エネルギーの導入	—	1箇所	0箇所	0%	×	笹森地区地熱発電の開発

評価基準 ◎ 100%以上 ○80%以上100%未満 △50%以上80%未満 □20%以上50%未満 ×20%未満 −評価外

基本目標	基本政策	項目	現状 (令和2年度)	目標値 (令和7年度)	達成状況	達成率	評価	補足説明
住みやすいね	6-1	移住相談件数	15件	30件	37件	123.0%	◎	役場で受けた相談が12件、移住イベント出展時の相談が25件。
		空き家空き地バンク登録件数	10件	20件	20件	100.0%	◎	令和6年度中の登録物件数。うち、3件の売買契約が契約成立。
	6-2	地区別計画の策定	—	7地区	0地区	0%	×	いずれも未策定
		まちづくり懇談会の開催	0回/年	10回/年	3回/年	30.0%	□	令和5年度は7地区で開催
		地域連携に向けた事業	13事業/年	15事業/年	17事業/年	113.0%	◎	3地区合同3事業・大堀地区6事業・向町地区4事業・富沢地区4事業
	6-3	まちづくりワークショップの開催	—	3回/年	1回	33.0%	□	旧富沢保育所を活用した地域づくりの検討会を実施
		男女共同参画の推進	60%	100%	72.0%	72.0%	△	女性を登用している各委員会数の割合（18団体/25団体）
		人材育成研修事業への支援	3団体	5団体	3団体	60.0%	△	3地区コミュニティ推進会議で開催する研修会への支援
		町ホームページのアクセス年間件数	118,368件	200,000件	241,420件	120.0%	◎	
		防災無線アプリ登録件数	1,150件	3,000件	2,300件	76.0%	△	
		マイナンバーカード普及率	18%	100%	79.90%	79.9%	△	総務省マイナンバーカード保有状況R7.3末時点
		オンラインで利用できる手続き数	2項目	7項目	4項目	57.0%	△	令和7年度中に目標値に達する予定
		経常収支比率	91.6%	90.1%	91.6%	0%	×	引き続き経常一般財源の削減に努めていく。
		実質公債費比率	8.5%	8.0%	11.2%	0%	×	引き続き公債費の削減に努めていく。
		将来負担比率	43.6%	43.0%	25.0%	100.0%	◎	目標値を上回ったが、引き続き、地方債の現在高の削減と、基金の積立を増やせるよう努めていく。